

トルクメニスタンの日本語教育に携わっていく中で

ドゥーレットマーメット・アザディ名称世界言語大学／
トルクメニスタン国民教育大学
勝 成仁

トルクメニスタンに赴任して、1年以上経過しました。赴任当時は右も左も分からない状況でしたが、業務にも生活にも大分慣れてきました。本レポートでは、ここでの日本語指導助手の業務内容について簡潔に述べていきます。

まず、1つ目は、ドゥーレットマーメット・アザディ名称世界言語大学（以下、アザディ大学）で授業を行うことです。2024年3月現在、唯一日本語専攻がある大学で、アザディ大学の卒業生しかトルクメニスタンの学校・大学での日本語教師資格を得られません。私は、新学期（2023年9月～）から、1年生の「日本語」の授業と4年生の「日本語教授法」の授業を担当することになりました。1年生は、大学から日本語の勉強を始めた学生がほとんどです。徐々に日本語で話せるようになっていく姿を見ると、非常に嬉しくなります。また、この1年生の授業は、新人日本語教師たちとチームティーチングの形で行っています。彼女たちは、2023年6月にアザディ大学を卒業したばかりで、教師経験がほとんどありません。そこで、週1回、授業の進め方に関するミーティングをしながら、協力して授業を行うことにしました。授業を重ねるにつれて、自信がついてきたと感じているところです。学生たちと彼女たちの成長を見守ることは、私にとって、1つの大きなモチベーションになっています。さらに、新学期から、日本語学科用の新教室を使用しています。これは、在トルクメニスタン日本国大使館の支援を受けてできたものです。電子黒板が置かれ、これまで以上に授業が進めやすくなったおかげで、授業が捗るようになりました。



新教室での「日本語」の授業の様子

2 つ目は、上級日本語専門家（以下、上級専門家）と協力して行う教師研修です。まず、高等教育機関の日本語教師向けの教師研修を 2023 年 4 月と 6 月に行いました。次に、初等（1~4 年生）・中等（5~12 年生）教育機関の日本語教師向けの教師研修を、2023 年 6 月にトルクメニスタン国民教育大学（以下、教育大学）、2024 年 1 月にアザディ大学で行いました。2016 年に、本格的に日本語教育が始まったトルクメニスタンでは、教師の教授力を向上させることは大きな課題の一つです。「教授法」に関する授業を行っていく中で、「こういった研修を行えば良いか」少しずつ見えてきました。ここまでは、「教授法の理論と実践」「授業の組み立て」「ロールプレイなどのコミュニケーション活動のやり方」などをテーマにしてきました。参加した先生から「これは授業で役に立つと思います」と言われたときは、この内容にして正解だったと思いました。今後の教師研修でも、授業で役に立つ内容を考えていきたいと思っています。

3 つ目は、初等・中等教育機関で使う日本語教科書の作成です。この作業は、執務室がある教育大学で行っています。トルクメニスタン到着後に現地日本語教師と始めた教科書の作成作業が、いよいよ大詰めの段階に入りました。教科書は、一般の中等教育機関用と、トルクメニスタンで唯一、初等から日本語教育を行っている 140 番学校用がありますが、私は、140 番学校 8 年生用を作成しました。作成中は、「こういった項目を入れたら良いのか」「学年のレベルに合っているのか」など、悩むことが多く、なかなかうまく進みませんでした。それでも、上級専門家や現地日本語教師のサポートもあり、完成まであと少しとなりました。あとは、印刷・出版を待つのみです。現在は、上級専門家とともに、140 番学校 9 年生用の教科書作成作業も行っています。教科書作成は、トルクメニスタン派遣専門家の重要な業務の一つであり、様々な業務の中でも大きな比重を占めています。



日本語教育実施校である
アシガバット 89 番学校の外観

最後の一つは、初等・中等教育機関への学校訪問（日本語教育実施校）です。手続きの難しさや様々な業務が重なったこともあり、学校訪問ができていませんでしたが、ようやく、上述の 140 番学校を含めた、アシガバット市内の全 4 校を訪問できました。やはり、直接授業を見て、その場でアドバイスを送ることが大事だと、改めて感じました。また、授業での先生や生徒たちの様子を観察していると、教師研修や教科書作成のアイデアも浮かんできました。今後はアシガバット市外の学校も訪問する予定です。訪問の機会を増やし、教師研修や教科書作成に活かしていきたいと思っています。

様々な業務がありますが、まだまだ日本語教育が始まったばかりであるトルクメニスタンにおいては、多岐に渡る支援を行っていかねばなりません。その中でも、日本語教材が十分ではなく、教師経験が浅い日本語教師が多いという現状に鑑みると、教科書作成と教師研修に力を入れていく必要があると考えています。大変ではありますが、その一方で、これほど様々な業務を行うというのは、なかなかできない経験だと感じています。残りの任期も精一杯取り組み、トルクメニスタンの日本語教育の発展と、自身の日本語教師としての成長に繋げていきたいです。

以上